

理事長基本方針



2016年度理事長 坂本 裕

まずは本年、創立 55 周年を迎えることができましたのは、先輩を始めとする諸氏の明德と陰徳の賜物であり、深甚なる謝意を表したいと思えます。歴史とは地域からの信頼、受け継がれし情熱の伝承は天壤無窮の美風と心得ます。



～ 覚悟の先駆け! GO!! 55!!! ～

この言葉を 2016 年度 理事長スローガンと致します。

地に根を張り、茎葉を伸ばす活動という大恩に報いるためにも、本年は“華のある姿”に頓着し活動を致します。迷いを払い心を鎮め、次代に種を宿すべく、皆が唸る最高の豊岡 J C という大輪の華を咲かせてみせましょう。

◆ 為すべきこと

「安全保障」と「グローバル経済」の均衡に国の在り方が揺れ、地方では人口減少が招く様々な問題に、これからの暮らしの在り方が問われている。豊かさを享受したはずの我々は今、何に価値をおくべきなのかに混迷をしている。明治期以降、一貫して増加を辿った我が国の人口は、急激な減少へと転じた。それは今生きている誰しもが経験したことの無いことが、十分起こり得るということである。そして、それは情熱滾る人物ならば、その問題解決や新たなビジョンづくりに存分に力を揮える時代であるとも言える。その主体在る情熱の焔は伝播し、関わる人々は生き活きと自分の為すべきことを行うだろう。先の敗戦後がそうであった様に、多くの人が憂慮する時代にこそ青年会議所運動は輝きを増すのである。舶来の合理主義や、民主主義の標榜する自由の魅力に傾倒し過ぎた我々は、己が世界観だけの自分ごとに従事し、みんなごとであるはずの公を、他人ごとと感じるようになってきている。今こそ J A Y C E E は、時代の求める公＝ソーシャルに果敢に関わっていくことが肝要である。初めに事を為すのは言い知れぬ困難の連続であり、最初から事が為せる人は稀で、大概の人は実践の中で体得し力を養うのである。しかし、そのような苦しい最中にこそ、怒りを感謝に、涙を笑顔に変え、勇往と目的に邁進する姿こそが、人を魅了する華の在る時なのである。そして、一人ひとりがそれを成就した時に、組織として華のある最高の豊岡 J C と為るのである。

◆ 創立 55 周年、全州青年会議所姉妹締結 50 周年、ブロック大会主管を同年に迎える意義

一般社団法人格を有して 5 年となる豊岡青年会議所は、創立 55 周年、そして大韓民国全州青年会議所との姉妹締結 50 周年を迎える。その節目の年に、公益社団法人日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会第 49 回ブロック大会を主管する意義は何であろうか。まず一つ目は、それらの一つひ

とつが、信頼の歴史在ってこそ享受できる貴重な機会ということである。そして二つ目は、大いなる目標を見据えLOMが一丸と為れること。さらに三つ目は、我々の活動を大きく周知できる機会であること。最後は、組織力を上回る目標を達成することで、日常の修練の真価が発揮され、今後とも意義深く活動ができるということである。本年を千載一遇の好機と捉え、“今こそ一つに”LOMの価値感を統合し、LOMの、そして個の成長に繋げ、未来へと力強く飛翔するのである。周年を終えても、兵庫ブロック大会を終えても、JCの運動は終わらない。

◆ LOM運営

上記を実現するため、本年は以下の委員会を設置し運営致します。

・総務委員会

LOMの要であり、総合的にLOMの運営を行います。そして、組織力ある例会を運営します。さらに、広報関係の役割を担いメディアを戦略的に活用します。また、広報誌「絆」を発行します。そして、創立55周年記念式典を行い、記念誌を統括し発行します。

・国際関係委員会

大韓民国全州青年会議所との姉妹締結50周年の節目を祝い、つながりを活かし地域に還元できる記念事業を行います。また、会員減少下の国際関係委員会の可能性を調査研究します。

・指導力開発委員会

豊岡JCの歴史を教育し、気風、規律を徹底して学習させ新会員のJAYCEEとしての資質の向上を行います。そして気概と品性を高めることで会員の意識を向上させます。

・兵庫ブロック大会実行委員会

第49回兵庫ブロック大会に関する業務を行います。そして、豊岡JCの力を結集し、物語を紡いだ設えや、CSV（価値共創）によるソーシャルインパクトを実践することで地域の活性化を図り、まちづくりを行います。

なお本年は、創立55周年記念事業を各当該委員会で考え、創立55周年実行理事が統括をしたく考えます。そして、専務理事直下に渉外室を設置し、アテンド業務を中心としたスムーズなLOM運営を行います。さらに、CDの委員会の要素である公益事業目的を孕む兵庫ブロック大会を地域活性化のための事業とします。また、必須の会員拡大は20代に重点を置きLOM全体で誇りを持って行います。

今、LOMに必要なことは組織自体のスマート化であると考えている。慣習や規律は、情熱の強弱を補完し、組織を健全な状態で次代へ繋げるための英知であるとも思う。一つひとつに意味のある仕組みを手放してしまうことは非常に心苦しく、違和感さえ覚えるが、未来を見据えて決然と取り組みたい。人数減少という環境に逼迫し強いられた変化は、変革の能動者の所業とは言えない。

◆ JCの仲間は皆信じあう

命を賭しても信じ抜くという暗黙の約束が、比類なき堅牢な絆をつくり、自らの限界を突破する源泉となる。このレバレッジ効果がJCの強みである。そこで養った力を、この豊岡の未来に捧げる。そんな修練を共に乗り越え、意識変革を経た仲間は生涯の宝である。信じるからこそ裏切られる。しかし、その涙を乗り越えて、また信じ抜く。はじめから面白いJCなんてどこにもない。JCを面白くする人間がそこにいるだけである。覚悟をもって、明るい豊かな未来を確信せよ。仲間を信じて、貫け己が一分。そこにこそリーダーたる価値がある。それは、まごうかたなき一人の華あるJAYCEEなのである。